

「鎌足桜の魅力」写真と短歌・俳句コンテスト

＜写真の部 講評＞ 木島 衛

この「鎌足桜の魅力」写真と短歌・俳句コンテストは、平成26年から始まり今年で8回目となりますが、残念ながら今年が最後のコンテストになりました。この間、皆様にはコンテストに応募頂きありがとうございました。お陰様で色々な角度からの鎌足桜の作品が集まり素晴らしいカレンダーを作ることが出来ました。ご協力に感謝申し上げます。私は、当初から審査員として参加させて頂きましたが、鎌足桜と言う一つの被写体に向かい合った皆さんの作品を拝見すると、「こう撮るのか」「これを入れて撮るのか」等、こちらが勉強させられる事も沢山ありました。ですから私も審査が毎回楽しみで、今年はどんな作品が出てくるだろうかと、いつもワクワクしていました。終わってしまうのは誠に残念ですが、皆様のこれからのご活躍を心から願っています。

さて、審査は例年ですと審査員全員の投票により選出していましたが、今年もコロナ禍の中での審査のため、昨年と同様、私の方で写真の種類やバランス等を考慮し、上位2点、入選8点、佳作2点の候補を選び、実行委員会、役員会を経て各賞を決定致しました。

コロナ禍に加えて最後のコンテストでもありますので、今年は応募者もかなり少ないと思っていましたが、予想に反し、昨年より8名多い23名の応募があり81点の多くの作品が集まりました。まさに最後を飾る激戦のコンテストになりました。

選ばれた作品は、どれも素晴らしい作品でしたが、その中で三沢貞夫さんの「休日のさくら公園」を最優秀賞の鎌足桜保存会 会長賞に、また川名国夫さんの「天まで上れ」を優秀賞の鎌足地区区長会会長賞に決定致しました。

最優秀賞の三沢さんの作品ですが、主題となる鎌足桜を手前に大きく入れ存在感を出しています。また、アスファルトの道が手前から奥まで伸びて奥行きを出しています。犬を連れて散歩している家族が草むらまで入っていて写真に動きも感じます。また構図もしっかりしていて色合いも良く広さも奥行きも感じられ、飽きの来ない作品です。晴れた春の一時の情景を見事に切り取った素晴らしい作品です。

次に優秀賞の川名さんの作品ですが、これも手前に鎌足桜を大きく入れ奥の方に鯉のぼりを配しています。この鯉のぼりが風にたなびき、春の心地よい風を感じさせます。また、春の陽射しと青空で済んだ空気感を感じます。建物もあり、全体的に構図もしっかりしていて、気分の良い素晴らしい作品に仕上がっています。

この他に入選8作品、佳作2作品が選ばれていますが、紙面の関係で割愛させていただきます。

最後に長年にわたり応募して頂いた皆様、また、ご支援を頂いた皆様には厚く御礼申し上げます。コンテストは無くなりますが、これからも鎌足桜を被写体の一つとして撮り続けて頂きながら見守って頂ければ幸いです。